

令和5年度 小金井市立小金井第二小学校 第4回 学校運営協議会議事録

■ 日時 令和5年11月24日(金) 11:00～12:00

■ 参加者

○学校運営協議会委員

尾崎 庸子	会長	池田 美紀	副会長 (公募市民)
篠原 熙	委員 (地域)	橋田 数彦	委員 (地域)
中島 雄祐	委員 (小金井特別支援学校長)	門脇 利種	委員 (小金井第一中学校長)
細川 猛彦	委員 (公募市民)		

○学校職員

瀧島 啓司 (小金井第二小学校長)	峯岸 尚子 (小金井第二小学校副校長)
-------------------	---------------------

■ 欠席者

○学校運営協議会委員

大久保 美千子	委員 (放課後子ども教室代表)	太田 千紗	委員 (前PTA会長)
浅野 あい子	委員 (東京学芸大学 准教授)		

■ 次第 司会 尾崎 庸子 会長

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶 学校の様子について
- (3) 令和5年度 学校評価について
- (4) 閉会

≪校長挨拶 学校の様子≫

- ・2学期は、運動会や展覧会等、行事を通して児童が大きく成長した姿が見えた。
- ・学級閉鎖を行った学級があったが、コロナやインフルエンザ等の感染症は現在落ち着いている。
- ・登校しぶりの児童に対しては、無理強いをせず、個別に対応しながら気持ちよく登校できるように支援を継続していく。

≪令和5年度 学校評価について≫

子ども権利の尊重

- ・感染症対策で小金井特支との交流がなかなかできない時期があったが、対面で行えるようになった。今後も交流をさらに進めていく。副籍交流も家庭の希望に合わせて行えている。
- ・あいさがだんだんできなくなっていると感じる。家庭での教育も関係している。親が挨拶することができない場合がある。根気よく声をかけていきたい。
- ・二小だからできる教育がある。特別支援教育の拠点校として理解教育がしっかり実施されていることがすばらしい。展覧会で小金井特別支援学校との作品での交流があったことはとても良いことである。
- ・理解教育が自然に行えることのすばらしさを感じている。
- ・理解授業が発達段階に応じて行われている。丁寧な、分かりやすい授業が行われている。
- ・職員での情報交換がしっかりできる体制が整えられている。今後も継続してほしい。

授業変革の推進

- ・学校公開では、保護者の学習への関心の高さを感じた。どの学級にも保護者が熱心に参観していた。児童の学力の高さにもつながっているのではないか。
- ・学力調査の意識調査の結果で、「国語」の授業について話題になったが、先生方が結果を意識し、内容を工夫して授業改善をしている様子が伝わってくる。
- ・ICTの充実は進んでいると感じる。考える時間の確保はこれからも進めてほしい。
- ・学校公開での国語の授業を参観して、教員が、児童に興味をもたせるための工夫をしていると感じた。
- ・ICTを進めるために、外に出て活動することが減っていくのかという心配がある。ICT教育が今後どのように成果が出ていくのかを見ていきたい。
- ・ICT端末はあくまでも道具である。児童は興味をもって楽しく取り組めるが、学習の中では、効果的な活用が大切になってくる。教員がしっかり考え、活用していかなければならない。
- ・民生委員にも端末が配布されている。操作方法を学ぶことに時間が費やされ、人と人との交流を減らしていくことになっていることを危惧する。子供たちも、人と人との交流が未熟な中でICTを重視していくことへの危険性があるのではないか。デジタルへの拒否反応がある子供もいるのではないか。

地域連携の推進

- ・東京都の事業として、動物との接し方を学ぶ授業をしている。地域の特色を生かした計画を、今後も継続していけるといい。
- ・今年度は2学期までに「FC東京 学校交流会」「笑顔と学びのプロジェクト バドミントン 高橋 礼華選手との交流」「ヤクルトスワローズによる投げ方教室」の体験授業が行われた。
- ・第一中学校では、「笑顔と学びのプロジェクト 落語体験」を実施した。話のプロである落語家からは教員の学びもあると考えた。
- ・第一中学校と連携し、古着リサイクルの取り組みを小中合同（本町小・一中・二小）で取り組んだ。
- ・毎年、認知症サポーター養成講座を実施している。学んだ子供が実際に行動している事案がある。
- ・HPで学校の様子を見られることがとてもよい。学校への関心が高まることが期待できる。
- ・落とし物をした子供を助けたところ、きちんとお礼を言われた。家庭がしっかりしつづけているのだと感じる。また、授業でも教育されていることの成果ではないかと思う。
- ・朝、あいさつできない子供が多いという声もあるが、挨拶することの照れくささもあるのではないか。声をかけ続け、関係をつくっていくことが大切だと考える。
- ・知らない大人と接していく経験がないことも原因なのではないか。地域の見守りを継続することの大切さを感じる。

特色ある学校づくり

- ・体力測定の結果をみると反復横跳びなど、平均を下回る種目がある。今年度も持久走週間や縄跳び週間を実施している。日頃から休み時間もよく遊んでいる。体力向上についての取組を計画的に実施しながら、系統的に指導を続けていく。
- ・遊びの様子も変わってきている。スポーツのクラブチームに入るか入らないかで、スポーツをやる子とやらない子の差が大きいのではないか。遊びに関しても時代なのか、内容が変わってきているから、体力やバランス感覚が落ちてきているのが心配である。子供たちが実際に競技をやってみると体が動かないことを知ることが多いと感じる。これからのコミュニティースクールでの取り組みが大きな役割である。

- ・二小は、様々な形で伝統的に行われていること（読み聞かせサークルさくらんぼの会など）が継続されている。大切にしていきたい。
- ・地域のつながりがある子供たちはしっかり育つと感じる。
- ・芝生環境が良い。芝生の維持が素晴らしい。養生期間も最短で、使用期間が長い。保護者や使用している団体の協力がもっと得られるとよい。

《閉会》

- ・本日いただいたご意見を、令和6年度の学校経営に生かしていく。

4 次回開催について

第5回 令和6年 2月 13日（火） 午前10時～（予定）

内容 ・学校からの報告 ・次年度の学校経営方針
・学校評価について ・人事異動 ・意見交換 等

【本日の資料】

- ・令和5年度 学校評価について